

留学で感じたアメリカと日本の文化の違い

折 井 優

Yuu ORII

電子情報通信課程 4年

1. ホームステイ

人生初のホームステイ体験は、私にとって大きな挑戦であった。アメリカでの生活は、私が慣れ親しんでいない文化と環境での新たなスタートであり、英語を主要なコミュニケーション手段としなければならぬことも、日常生活を難しくした。

最初の数日、私はどこに何があるのかを尋ねることが一苦勞であった。ホストファミリーの家に住んでいたため、彼らの家の中でも物の配置や使い方に戸惑うことがあった。キッチンでの料理や洗濯機の使い方など、普段当たり前に行っていたことが、異なる国での生活では新たな挑戦となった。しかし、ホストファミリーはとても理解があり、私の質問に応じて親切に教えてくれました。そのおかげで、少しずつアメリカでの生活に慣れていくことができた。

一番のコミュニケーションの難しさは、英語での会話であった。母国語である日本語を話すことに慣れていた私にとって、英語でのコミュニケーションは初めての経験であった。言葉の発音や表現方法が異なり、時には自分の思いをうまく伝えられないことがあった。特に初めの頃は、どうやって質問をしたり、自分の意見を述べたりするかに苦勞した。しかし、私の周りの人々は、私の努力を評価し、Google 翻訳などのツールを使ってでも、コミュニケーションを円滑に進めようとしてくれた。彼らのサポートがあったおかげで、少しずつ自信をつけていくことができた。

2. 海外インターン

2週間にわたり、私の仕事は一貫していた。私の

勤務場所は主に日系アメリカ人の資料館のような場所であり、そこには多くのポスターが保管されていた。私の仕事は、これらの多くのポスターをエクセルでデータ管理することであった。ポスターは年代別に整理されており、以下のプロセスを通じてデータ管理を行った。

1. ポスターを取り出し、ポスターのタイトルからエクセルにデータが保存されているか確認
2. ポスターのデータがあれば、それを確認し、エクセルに記録
3. ポスターのデータがない場合、ポスターのタイトル、作者、年代、メジャー、縦と横の長さを計測し、これらの情報をエクセルに入力
4. ポスターの写真を撮影し、データと一緒に保存

この作業を通じて、貴重なポスターコレクションのデータ管理を行い、資料館の資源を効果的に活用する手助けをした。



図1 作業スペース

図1のパソコンにデータを打ち込んでいた。作業は2人で行い、1人はパソコンでデータ入力、もう1人はポスターから長さを測ったり情報を読み取っていた。

2日目には、作業に徐々に慣れてきたため、1日目比べて作業がスムーズに進行した。作業は依然

として大変であったが、慣れることで確認作業も英語で行うことができた。1日全体を通して、比較的余裕のある一日を楽しむことができた。

3日目では午前中は通常通り写真を撮り、長さを測定し、エクセルにデータを入力した。午後は車で日系アメリカ人の資料館に行き、彼らの研究に没頭した。4日目と5日目も同様に、エクセルにデータを入力する作業を続けた。2週目の初日は通常通りエクセルにデータを入力し、午後からは資料館に展示されている太平洋戦争で使用された軍服やズボンのサイズを測定した。それ以降の日々も、主にエクセルにデータを入力する作業が続いた。

その後も、私の仕事はほぼエクセルにデータを入力することに集中していた。ポスターのデータ管理は日を迫うごとに効率が上がり、作業速度が向上した。英語での確認も日常的に行えるようになり、コミュニケーション能力が着実に向上していた。この経験は私にとって非常に貴重であり、グローバルな環境での仕事に対する自信をつける機会となった。特に言語の壁を克服し、自力でコミュニケーションを取ることができるようになったことは、将来のキャリアにおいて大きなアセットとなった。

3. まとめ

最終的に、この海外インターンシップを通じて、言語の障壁を乗り越え、異文化間でのコミュニケーション能力を向上させ、専門知識を拡充させる貴重な経験を得ることができた。これは私のキャリアの発展において大きな一歩であり、将来の成功に向けて自信を持つ手助けとなった。2週間の間、私の英語があまり流暢でなかったにもかかわらず、皆さんは私を受け入れ、Google 翻訳などを使ってコミュ

ニケーションを取ってくれた。本当に皆さんはとても優しくかった。後半の1週間は時折、心が折れそうになり、何度か日本に帰りたいと思う瞬間もあったが、それでも頑張って乗り越えた。この経験は本当に大変であったが、その努力が自信につながり、いずれかの形で報われると信じている。初めてのアメリカでの海外留学が実現できて、本当に嬉しかった。大学生の間に留学をすることをずっと考えていたが、コロナ禍の影響で3年間も実現できなかった。しかし、実際に海外に行って約3週間、日々文化の違いを感じながら過ごすことができ、退屈せずに楽しい留学体験となった。

最後に、私自身、人の気を使いすぎる性格だと思っていたが、海外の人々は思っていることがあれば率直に表現し、逆に察して欲しいことがあってもこちらから言葉に出さない限り気づかれないことが多いことに気付いた。これを考えると、私に限らず僕たち日本人は優しいすぎるのかもしれないと感じました。アメリカではお店の人々のお客様への対応がフランクで気楽であったが、日本に帰国して日本人のおもてなしの精神はやはり素晴らしいと再確認できた。海外での生活は、日本の常識が通用せず、分からないことは英語で解決しなければならず、日常の雑談も英語で行う必要があるため、気の休まらない日々が続いた。しかし、最後まで諦めずに頑張り抜いたおかげで、英語力が飛躍的に向上し、自信を持つことができるようになった。これからも新しい挑戦を続け、頑張っていきたいと思っている。留学を通じて得た経験は、自身の成長と自己確信につながるものであり、これからの人生においても活かしていきたいと考えている。